

発行所 東京都新宿区左門町11番地6の101  
〒160-0017  
社団法人 大学婦人協会  
電話 03-3358-2882  
FAX 03-3358-2889  
http://www3.tky.3web.ne.jp/~jauw/  
郵便振替 00150-7-173434  
編集兼発行人 鷲崎千春  
発行日 平成13年11月25日

# J A U W

## おもな記事

- 1面 全国セミナー「21世紀、男女共同参画社会の確立をめざすエンパワーメントのストラテジー」、IFUWからのメッセージ、オタワ総会報告
- 2面~3面 シンポジウム要旨、支部・委員研究会報告、学際セミナー
- 4面 新入会員、新春のつどいのお知らせ



写真=リンダ・スターIFUW前会長(右)から引き継ぐ青木会長

## IFUWからのメッセージ

差別のない希望の見える生活を求めて

IFUW会長 青木 怜子

この度は、JAUWの皆様をはじめ、いろいろな国の方々から多くのご支援を頂き、IFUW会長に就任することになりました。オタワでの総会に出席された方々が、選挙の結果をあれほどまでに温かく受け止めて、我が事として喜んで下さったことは、私にとりどんなにか心細み、また心強く思えたことでしょうか。改めて、皆様のご支援に厚く御礼申し上げます。

大会が終わり、一段落する間もなく、あの9月11日の事件が起こりました。その衝撃は一月以上たった今でも、心の底にこびりついて離れません。悲しいことに、IFUWに対して私が取った初めてのアクションは、AAUW(アメリカ大学婦人協会)の会員に宛ててIFUW名で見舞いのメールを送ってほしいと、ジュネーブ事務局に依頼したことでした。

あの日以来、AAUWには数々のメールが送られ、それらは何人かの会員の間でメール回覧されました。その多くが、胸に沁みるような激励と望みの言葉を託すものでした。長年、戦火に苦しんできたクロアチアの会員からは、自分たちがかつて日常茶飯事のように繰り返された空爆による惨状の中にいたからこそ、9月11日の悲劇が身につまされるように判ると書いてありました。それに対し、アメリカの会員から、他国のことに目も向けず、自国に起きたことのみを最大の不幸と受け止めていた自分たちは、傲慢ではなかったのかと書かれていました。

今、世界の情勢は、誰もが憂いと危機感をもつものです。このような中で私たちNGOには、一体何が出来るのかと、絶望的な想いに苛まれた方も少なくないと思います。ましてや、私たちの運動は、緊急時に敏速に動くわけでもなく、教育の成果などといった悠長な話では、何か世離れていると思われたかも知れません。しかもタリバンの間での「教育」の逆成果を見れば、教育の功罪が私たちの心を揺るがせ、曇らせます。せめて、歪められることのない教育をあらゆる機会に広めることが、高等教育を受けたものの責任ではないかと、つくづく思い知らされました。ちなみにIFUWでは、昨年、タリバン政権下のアフガニスタンで、女性への教育の機会が閉ざされている現況に、抗議の声明文を送っています。

IFUWでは向こう3年間、「Humanizing Globalization」を統一テーマに、技術革新が一層進む中で、進歩から取り残されやすい国々や地域や少数民族の人たちが、より一層の不利を蒙らないよう、その方策を考え、アクションを起こします。この3年を少しでも価値あるものとするために、それぞれの国や、それぞれの地域での活動が期待されますが、1国では挙げにくい効果も、あるいは2千人足らずの会員では成果の薄い活動も、71カ国の18万人の会員によって支えられれば、世界に訴えていける活動を展開できるのが私たちの強みです。重い不安の中で、21世紀が動き始めました。その中で、一人でも多くの男女の成人が、一人でも多くの男女の子供たちが、差別によるハンディを減らし、希望の見える生活が求められるような運動を、ぜひとも展開させて行きたいものです。

青木怜子JAUW元会長が圧倒的多数の支持を得て会長に選出され、幸先よいスタートを切った。また、房野桂会員も難関だった女性の地位委員の座をトップで射止めた。JAUWには今総会にかけるもう一つの目標が

大きな力となった。会議初日の会長選挙で、青木怜子JAUW元会長が圧倒的多数の支持を得て会長に選出され、幸先よいスタートを切った。また、房野桂会員も難関だった女性の地位委員の座をトップで射止めた。JAUWには今総会にかけるもう一つの目標が



決議案の主旨説明をする平野委員長

の改訂案が取り下げられ、定款の改訂も、4名の副会長の序列的な呼称を廃止するといった良識的な結果に落ち着く例が多かったのは幸いだった。それでも慣れない英語での緊張する会議が続くなかで、カナダ大学婦人協

第27回IFUW総会があった。過去3年間の全

今総会では、議論を呼ぶと思われた会費算定制の改訂案が取り下げられ、定款の改訂も、4名の副会長の序列的な呼称を廃止するといった良識的な結果に落ち着く例が多かったのは幸いだった。それでも慣れない英語での緊張する会議が続くなかで、カナダ大学婦人協

## IFUWオタワ総会報告

国際委員長 平野 和子

第27回IFUW総会があった。過去3年間の全

第1日目は、参加者全員がすべての調査・研究発表を聴きました。7支

花を添える喜ばしい成果であった。また、3年間の活動報告に書き添えた静岡支部の男女平等参画社会基本法の草案例試案は、世界各国の会員との交流を深め、心を和ませる場となった。参加者に多い思い出を残した。多くの成果を挙げて総会は幕を閉じたが、JAUWが推挙した青木新会長の任期は始まったばかり、今回の成果に奮ることなく、いままでも以上に実践活動を活発に進め、会員増強に努力すること

## 2001年度全国セミナー開催

21世紀、男女共同参画社会の確立をめざすエンパワーメントのストラテジー

全国セミナーにおける決議事項のフォローアップ

## 団体としての力を発揮

JAUW会長 山本 和代

文部科学省の助成を得、男女共同参画社会の確立を願って回を重ねた全国セミナーもいよいよまとめの年になりました。「男女共同参画社会基本法」が施行され、これに基づいて基本計画が策定されたとはいえ、社会の現実はいかに向けてどこまで進めようとしたか。このテーマに沿って3年間のセミナーでは、日頃の学習・活動の成果を持ち寄り多くの研究発表を行い、私たちが取り組む課題を決議としてまとめてきました。その実践はどこまで広がりが、個人として団体としてのエンパワーメント

が達成されたでしょうか。何ができたか、何ができなかったか、何ができなかったら阻害要因は何か、今後どう行動したらよいかを互いに問い合い、次のステップに備えることが必要です。今夏のIFUW総会では青木怜子元JAUW会長が、各国の圧倒的支持を受け会長に選出されました。国際社会に果たす私たちの役割、責任も一段と重さを増してきました。いま世界は繰り返される悲惨な殺りく、度重なる人命軽視、著しい人権侵害の嵐のなかで明日への希望を見失ってきています。このような状況

のなかで青木会長を擁し、各国に支部を持つIFUWの連枝として、私たちは、歴史をかけて掲げてきた目的を再確認し、日頃の活動を検討する必要性に迫られています。今回のセミナーがこれらの点を視野にいれ、各自のエンパワーメントにとどまらず団体として一層の力を発揮する契機になればと願っています。私たちが地道な努力を積み重ね、各方面とのパートナーシップをより密にして行動に結んでいくことが、ご多忙のなかへご出席いただいた来賓の皆様へ、快くパネリストを引き受けてくださった方がたにお応えすることであると思えます。本日、空のようなきわやかに澄み渡った社会が来ることを待ち望み、励んでまいります。

## 全国セミナーを終えて

企画第一委員長 杉森 長子



フロアとの活発な意見の交換

部と本部の3委員会の発表がありましたが、発表題目と内容の詳細は別欄に譲ります。第一日目の午後は、本部長委員会の調査・研究発表の後、シンポジウム「どこまで進んだ男女共同参画社会」、夜には例年のように懇親会と多彩な企画が続ききました。シンポジウムでは、男女各二人のパネリストを迎え、30代から60代と世代の異なるさまざまな立場からのご意見を伺いました。男女共同参画社会の確立に不可欠な課題がはっきりと見える意見が飛び交い、示唆に富む印象的な一時でした。パネリストの皆さんが懇親会にもご出席ください、親しくお話しする機会を持ってましたことは、喜ばしい限りでした。懇親会では、IFUW

会長、青木怜子さん(当会会長)から、新会長の抱負を伺うことができました。また新たにIFUWの女性の地位委員会委員に選出された房野桂さん(当会会長)のご挨拶もありました。第二日目午前中には、学校教育、家庭教育、女性と職業、高齢者問題の四つの分科会が設けられ、参加者は各々の関心にしたがい分科会に出席し、活発な討論を行いました。

本年度は3年間のセミナーの総決算を目標に、フォローアップ(決議の進捗点検)を主題とした。課題の解決策探究を全体討議で心掛けましたが、難問山積の実態は否めず、男女共同参画社会の確立への道程の長さの再確認させられました。さらなるエンパワーメントに努力しましょう。

- IFUW新役員
- 会長 青木 怜子 (日本)
- 副会長 アテイ・ブロム (オランダ)
- キャスリン・ローリカ (アメリカ)
- グリゼルダ・ケニヨン (イギリス)
- ルイーズ・クルント (ニュージーランド)
- 財務理事 テリー・オールドランド (オランダ)

シンポジウムは「どこまで進んだ男女共同参画社会」と題して行われた。まずコーディネーターの山本会長からパネリストの紹介があり、新潟県六日町立大巻小学校校長の上沼敦子氏は学校教育の視点から、文京区議会議員の前田邦博氏は高齢化社会や地域との関わりで、電通総研副主任研究員の鈴木理恵子氏は少子化と男女のライフスタイルについて、日経新聞社編集委員兼論説委員の鹿嶋敬氏は国や自治体レベルの法制化の動きを踏まえ、それぞれ発言された。

【上沼敦子氏】  
まず、中学校教員、教頭、教育委員会、小学校校長としての歩みについて話された。比較的平等の進んでいる学校でも、男性教員のみ参加の外部研修があったり、校務分掌で希望しても進路担当になれなかったり、女性管理職に対する教員や地域の意識の低さを感じたことを発言。学年主任や教務主任の経験から、学校全体への目くばりの必要を感じて管理職へ進み女生徒の支援を受けたこと、中学校教頭時代に小学校での「さんづけ」や「男女混合名簿」への取り組みを知ったこと、新潟市教委時代に先生への研修・先生や生徒向けの教材づくり等を通して「男女平等教育」に取り組んできたこと、実践活動はかなり進んできたが形だけの学校もあり、本音の部分で教員の意識改革は途半ばと指摘された。

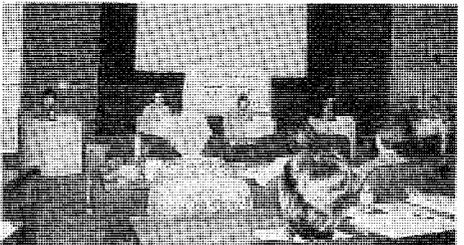
【前田邦博氏】  
「自身のお母様が若年性痴呆症になられ、その介護の経験から地域・福祉・政治に関わりを持つようになった経緯を語り、問題点を指摘。①高齢化が進展する中、介護する側の精神的・肉体的負担の重さとそれへのサポート体制の不備②公的介護保険導入後の介護の質の低下③特に痴呆の場合、要介護度が低く認定されやすく、徘徊などに対する介護する側の負担が考慮されない現状等を指摘。介護家族へのサポート

【鈴木理恵子氏】  
まず、「高齢化」の問題

### 「どこまで進んだ男女共同参画社会」

氏氏氏  
子博子敬代  
歎邦理和  
沼田木嶋本  
上前鈴鹿山  
コーディネーター

「少子化」に関する資料が少なく、タブー視されてきたのではと指摘。少子化進展の原因と、女性の生き方・ライフスタイルについて言及された。我が国の合計特殊出生率は1.35とイタリア・ドイツに次いで低いのが、その原因について次々に指摘。①未婚化・晩婚化が進んでいること②婚外子が認められにくい日本社会では、それが少子化と直結しやすいこと③女性の社会進出が進む中で、結婚や育児へのサポート体制が不十分で、経済的コストを考えると、結婚して失うものが多い現状④パラサイトシングルとそれを支える親の存在⑤自己実現のために働き、家事・育児などに男女の役割分担を主張しながら、男性が女性を養うのは当然と考える女性たちの存在等々。



「男女共同参画社会」に向けての法整備などに関わった経験から、現状を分析。首長や議員、各委員会のメンバーの本音はまだまだ保守的で、「個人の尊重」を強調する」と家族の一体感を損なうという形で、アレクサー反応が必ず出てくる現状を指摘。例えば「性別にかかわらず」という文言が盛り込まれた「男女共同参画社会基本法」が危険視されていたり、某自治体条例で、互いの違いを認めつつ」という文言が入らないと成立しにくいという話等を披露。

選択的夫婦別姓問題では、1996年法制審議会の答申が出されたが国会審議に至らない現状を説明。第3号被保険者の問題も、女性のライフスタイルの変化（パートや派遣社員急増）に対応する様々のプランが考えられながら進展していない現状を言及。背景として、ウーマンリブは起ったが、既得権を持つ男性のメンズリブが個人でも、企業でも広がっていないと指摘された。

【支部・委員会研究報告概要】 (発表順)  
福島支部は、女性の社会参画に向けて男性社会と同等に男女差別をなくして個人としても能力発揮できる機会の確保の改善に向け、学校にアンケートを実施し、「学校における男女平等教育」を取り上げて検討した。但し「教育における政治的中立」を原則とする。女性のエンパワーメントとは、「政治的・経済的・社会的及び文化的な資質の分析により測定された女性の社会的な能力、または、力をつけたもの」として表現され、具体的には「女性の稼働所得割合、専門職・技術職・管理職及び国会議員などに占める女性の割合」を用いて算出された。(総理府1997・9)

福島支部では、21世紀男女平等教育の課題を福島県で平成元年から実施した高校では、映画「クレイマー」を題材にして「男女の役割」や「女性の生き方」を考えさせたり、事前に父母や生徒にアンケートをとるなど、男子にも興味と関心をもたせる工夫がなされ、家庭科が男女

家庭で、学校で、男女共同参画は進んだか  
— 中学校での15年後の再調査 —  
静岡県支部 中川 貴代  
今年度静岡支部では、表題に関して15年前とはほぼ同じ調査を行い、男女共同参画が進んだかを検証することにした。前回調査と同じ静岡・清水両市の公立中学校8校の2年生に加え、今回は担任にもアンケートを行った。この調査から以下のことが明らかになった。

1. 男女生徒ともに家事分担の減少が見られ、何もしない生徒が増加している。  
2. 父親の家事分担が増加しているが、何もしない父親も依然として2/3割いる。  
3. 「男だから、女だから」という理由による不公平な言葉や扱いを感じた生徒が少しではあるが減少している。  
4. 不公平な言葉や扱いの理解と意識を高める画の実施

女性エンパワーメントと大学  
— 関西圏の大学を中心に —  
奈良支部 宇佐見 香代  
未来社会のモデルとなるべき大学における女性のエンパワーメント及びリーダーシップの発揮のための条件整備の現状と将来について、関西圏の4年制大学を対象にアンケート調査を行った。男女共同参画社会の形成のために、女性がその役割を担える力をつけることが必要である。と

自分でも決まっていた。食生活の提供、居室管理はA.Lの基本サービスに含まれていたが、移送、洗濯、投薬管理等のサービスは施設により異なっていた。ケアスタッフやプライバシー保護に対する入居者の満足度は高かったが、移送、食事、費用、施設側との対話機会への満足度は高いとは言えず、特に生活満足度が低い者が多かった。調査結果より、高齢者の生活満足度を高め、相互のよりよい共生につながる自立援助の提供には、高齢者の現状を適切に見極め、人権と意思を尊重する視点が不可欠と考えられた。

### 21世紀の共生社会における男女の生き方と子育て

大阪支部 西野 博子

**目的・方法**：男女共同参画社会実現は活力ある社会を目指す上で我が国の将来を決定する鍵といわれ諸施策が取り組まれているが、男女とも仕事と家庭を両立させるには個人個人の意識は高いとはいえない。なかでも家庭内における子育てを巡る男女共同参画の認識は伝統的家族観もあいまって先進諸国の中でも極端に低い現状にある。本研究は家事・子育てに対する男女の実態を明らかにするために、主に幼稚園・保育園児を持つ母親を対象に家庭内での家事の分担、夫に求める協力、子育てに関する地域・行政・施設などの要望についてアンケートによる調査を行った。

**結果・考察**：調査は2001年4～5月大阪市内在住する母親を対象とした。有効回答者は29人。子育てに関する項目で、主に夫が中心と回答した人は、食事の世話1人、排便の世話2人、送り迎え4人、子どものための会合出席4人、家庭内でのマナー教育1人、社会規範の教育5人といずれにおいても夫の関わりが少ないことがわかった。子どもと一緒に遊ぶのは、夫19人、妻34人であり、この項目のみ割合に高い比率を示した。父親としては子どもと遊ぶことで親としての面目を保っているのかもしれない。夫に自分自身の子育てをするという意識を持ってほしいと母親が自由記述で述べていることに、共に生きる願いが盛られているといえる。

### 神戸における不登校の実態と考察

男女共同参画社会実現への提言

神戸支部 齊藤 うめ子

今年8月に発表された学校基本調査によると昨年度の「不登校」を理由とする長期欠席者数(年間30日以上)は13万4282人となり、これは昨年度に比べ4055人の増加で、過去最高となっている。

神戸市では平成2年度に神戸市不登校問題対策検討協議会が設置され、市教育委員会は緊急措置として神戸市青少年補導センターに適応指導教室を設置した。また市内33校(120校担当)にスクールカウンセラーを配置するなど学校復帰への実践的支援活動を展開しているが、不登校数は増加の一途をたどっている。

神戸支部は不登校が全国でも最も多いと言われる神戸の実態調査と原因について取り組んでみた。

不登校になると子どもが学校に不応答になっていくといわれるが、現実には学校制度自体が子どもたちに不応答になっていくのではないかと、不登校の原因を逆説的な観点から捉え、「教育とは何

か」、本来学校があるべき本質的役割と教師の役割は何か、「教育」の役割を原点に戻って、その「教育」をゆがめてきた原因は何かを考察する。それは高度経済成長社会が能力主義、合理主義、管

### テレビアニメが子どもに及ぼす影響(その2) ジェンダー観に及ぼす影響

教育委員会 武藤 亜希子

教育委員会では、昨年度から2年間にわたって、子どもたちのジェンダー観形成に大きな影響を与える可能性があると考えられるテレビアニメを研究課題として取り上げてきた。

昨年度は、実際に子どもたちがどのような番組を視聴しているか、また親がテレビアニメ視聴に

### 大卒女性の進路・職業・生き方

「きりん型」の克服に向けて

女性の地位委員会 村田 鈴子

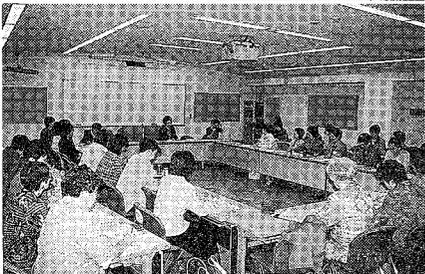
本年度の研究発表として、研究・調査してきたことについて、A、3年間の決議事項のフォローアップと、B、「きりん型」の克服に向けての二つのサブテーマにまとめた。

前者は課題を自立した人間としての行き方の探

### 高齢者の自立支援と介護者への支援

社会福祉委員会 伊藤 智恵子

少子高齢化に伴う医療介護改革の中で、高齢者自立と介護者支援の問題がクローズアップされてきた。本研究はこの二点に焦点を当てた調査の結果を得た。(会員中無作為抽出40名、回答率69・5%)



(1) 高齢者自立 回答者の約40%が社会参加面で「経済的自立」を意識行動し、約90%の人が「健康良」を維持してボランティア等に積極的参加、IT時代に対応48%

(2) 介護者支援 回答者のうち身内を介護している人が50歳代で35%、60～70歳代はそれぞれ21%、80歳の例も見られ、これこそ老老介護の実態である。家庭介護については利用者の立場に立った体制の早急改善実施を行政に求めたい。

### I F U W 総会 学際セミナーの司会を務めて

前教育委員会委員長 田中正子

今回、「平和の文化を育てる教育」という学際セミナーのコンピニター(司会)を務めた。ラポルトウール(記録者)を藤村久美子教育委員会委員長にお願いした。セミナー会場は人で溢れ、関心の高さがうかがわれた。「平和」は抽象的な概念であるが、「平和の文化」という言葉には、「生存の場」というリアルな響きがある。そのことを示すかのよう

**若手会員の斬新なアイデアに期待!!**

JAUWの若手会育成金は、45歳以下の会員が中心の研究に年20万円の研究費が支給されます。2年にわたる場合には40万円の研究費が受けられます。

静岡支部勝又幸子さんのグループは「女性と税制・社会保険料」、愛知支部林依里子さんのグループは「ビクトリア朝時代における女性のエンパワーメント」の研究をされ、それぞれ全国セミナーやIFUW総会のワークショップで発表されました。若手会員の皆さん、研究グループを作ってみませんか。

**会費納入のお願い**

今年度の会費は、もうお納めくださいましたか? 皆様のお納めくださる会費が、本会運営の基礎となる唯一の財源です。未納の方は、お早目に、各支部を通してお納めくださいませ。

どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

二〇〇一年十一月

会 員 委 員 長



カメルーン、フォムダム氏の発表 藤村委員長(左)と筆者

40年間、民族間の紛争が絶えることがない中央アフリカの状況を女性の手でなんとか変えていきたい、そのためには、平和交渉のテーブルに女性を参加させるように、エンパワーしなければならぬと述べた。

ドイツとオランダが共同で運営している難民収容所で働いているオランダのダークス氏は、難民女性のために開発されたトレーニングプログラムについて発表した。難民自立のためのトレーニングにもジェンダーがあり、男性中心のプログラムは、最後に、インドのスタンダー氏は、女性は平和や非武装の代弁者にならないければならないと提案した。

今後は、女性が、安全保障の意思決定場に参画するために、どのようなエンパワーメントが必要であるかを議論していく必要があるだろう。9月11日にニューヨークで起こった同時多発テロで、瞬時に50000人を超える一般市民の生命が奪われた映像を、リアルタイムで目のあたりにした時、このことを一層強く感じた次第である。

また、次の総会では、是非JAUWも、全国セミナーの研究報告の中から適した論文を選んで発表してはどうか。

